

令和6年度第10回 感染症発生動向調査協議会

令和7年1月22日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、大野 元（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2024年第49週～52週・12月）

＜全数把握対象疾患＞

- ・ 結核は毎週報告あり（2024年累計の対前年比114.6%）。発症者15例のうち9例が80歳以上である一方、10歳代1例、20歳代3例、30歳代2例の報告あり。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症が3例報告あり（2024年累計の対前年比165.2%）。
- ・ E型肝炎が1例報告あり。
- ・ つつが虫病が第49週から第51週にかけて計8例報告あり。
- ・ レジオネラ症が2例報告あり。
- ・ 急性脳炎が1例報告あり（2024年累計の対前年比185.7%）。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1例報告あり（2024年累計の対前年比150.0%）。
- ・ 後天性免疫不全症候群が1例報告あり（2024年累計の対前年比106.7%）、いずれも無症候性キャリアであった。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症が6例報告あり（2024年累計の対前年比132.3%）。うち1例が1～4歳児（ワクチン接種歴不明）で、他の成人例5例（うち65歳以上が4例）もワクチン接種歴なし、もしくは不明であった。
- ・ 水痘（入院例）が2例報告あり（2024年累計の対前年比185.7%）。
- ・ その他、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症がそれぞれ2例ずつ、急性弛緩性麻痺、百日咳が1例ずつ報告あり。

（STI）

- ・ 梅毒は、男性9例（早期顕症1期3例、2期2例、無症候4例）、女性1例（早期顕症2期）の計10例の報告があった。2024年の累計は138例で、対前年比で97.2%、対2019年比では179.2%となり、コロナ流入以降、患者報告数の多い状態が続いている。

＜定点把握対象疾患＞

- ・ インフルエンザ、前月比1215.2%と急激な増加がみられ、第51週に定点あたりの報告数が30を超え、第52週には50.3に達した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が、前月比271.6%と増加傾向であり、第52週の定点あたり報告数が8.2となった。
- ・ 感染性胃腸炎が、前月比159.1%と増加傾向である。
- ・ 伝染性紅斑が関東や東北地方を中心に流行しているが、県内では大きな流行はみられていない。
- ・ マイコプラズマ肺炎は、前年同期比2200.0%であるが、前月比は68.8%と減少傾向である。

2 検討すべき課題

- ・ “2019 年同期累計”、“対 2019 年比” をいつまで継続するか
- ・ インフルエンザ、COVID-19 流行の一般向け情報提供・啓発に関する連携について
- ・ 大阪・関西万博における感染症強化サーベイランス（令和 6 年 9 月 6 日 厚生労働省事務連絡）
＜事務局から＞
- ・ 岐阜県の急性呼吸器感染症(ARI) 定点医療機関に指定について（継続）

3 情報提供すべき事項

- ・ 昨年みられた感染症（特に流行したもの、初めて報告されたもの、等）やトピックスについて

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 令和 6 年度岐阜県予防接種研修会
日時：令和 6 年 2 月 4 日（火）14 時～16 時
場所：岐阜大学医学部記念会館 2F ホール
対象：県内予防接種行政担当者、実施担当者

5 その他（感染症対策推進課から）

（国通知・事務連絡）

- ・ 急性呼吸器感染症サーベイランス実施に向けた準備について（依頼）
- ・ ルワンダ共和国におけるマールブルグ病の終息について（情報提供）
- ・ 結核集団感染事例一覧について
- ・ 入国前結核スクリーニングの実施について
- ・ 今冬のインフルエンザ等の感染拡大に備えた注意喚起について
（県公表資料）
- ・ 季節性インフルエンザ警報を発表しました
- ・ インフルエンザの集団感染について

＜検討結果＞